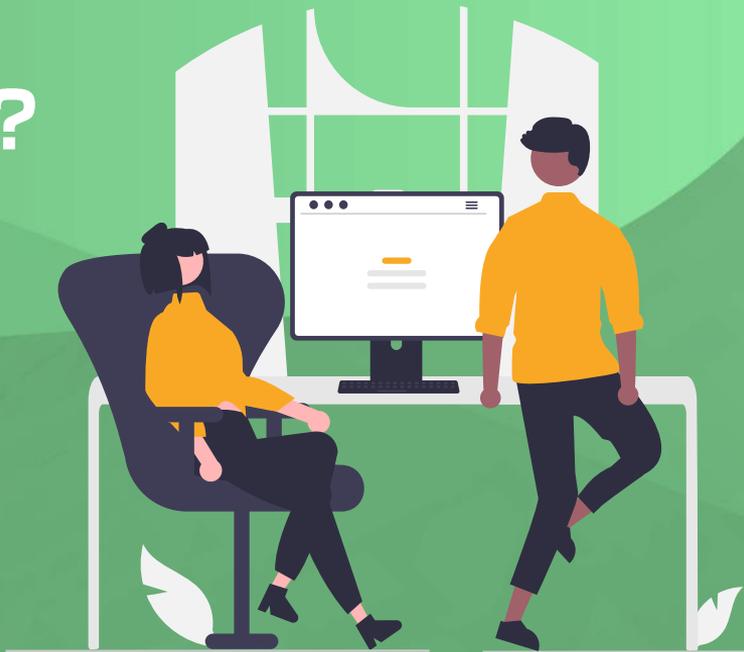


ChatGPTは教育に活用できる？ 課題とポイントを紹介 Part2



CONTENTS

目次

■ 第一章

ChatGPTを教育で利用する際の課題

■ 第二章

ChatGPTを教育で活用する際のポイント

■ 第三章

デジタル・ナレッジにおける
ChatGPT×教育活用の取り組み

■ 第四章

まとめ

はじめに

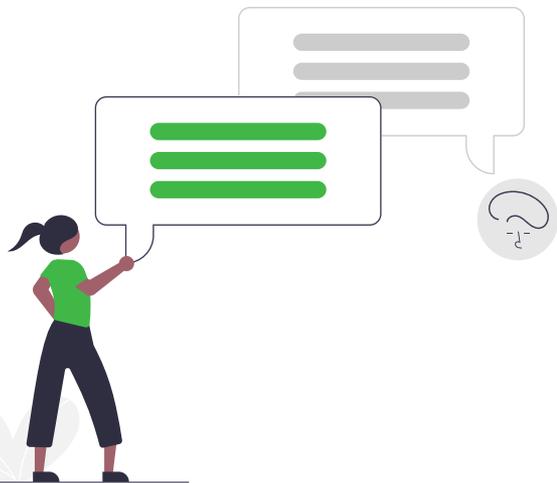
オンライン教育の利用が爆発的に増えています。新型コロナウイルスの影響でテレワークが推奨されたことがきっかけとなり、教育機関における“遠隔教育”や組織（企業・官公庁など）の“社員教育”にオンラインを活用するケースがこれまで以上に増加したことが背景にあります。そこでデジタル・ナレッジでは、本資料を含むホワイトペーパーの資料にて、オンライン教育・研修の導入を検討されている組織・教育機関の皆さまに向けて、市場調査の支援として様々なテーマでお役立ち情報をまとめております。基礎知識や導入のポイントを分かり易く解説いたします。ぜひご覧ください。

第一章

ChatGPTを教育で利用する際の課題

ChatGPTを教育で利用する際の課題

教育にChatGPTを活用するメリットはたくさんありますが、一方で、教育現場にChatGPTを導入するにあたっては、さまざまな課題が指摘されています。



- ① 自己学習機会の喪失
- ② 個人情報・機密情報の漏えい
- ③ 誤った内容・不適切な情報
- ④ 法令違反・倫理的問題
- ⑤ ガイドライン・指針の明確化

それぞれ解説していきます。

① 自己学習機会の喪失

ChatGPTの教育利用でとくに問題になっているのは、学習者がレポートや課題などの文章作成をChatGPTに任せてしまうという懸念です。

ChatGPTは、学習者が自分で考えなくてもアイデアを出してくれたり、文章を生成してくれます。

「学生が課題をChatGPTに書かせて提出した」といったことも起こり得るため、結果として学習者が自ら調べたり考えたりする機会が失われ、創造力、問題解決力、批判的思考力の育成が妨げられる可能性があります。

すでに国内の大学では、ChatGPTを含む生成AIが作成した文章などを、学生がそのまま課題などとして提出することを禁じるケースが増えています。

しかしながら、実際には人が作ったものとChatGPTが生成したものを判別するのは難しく、学生による不正利用の可能性、従来の教育方法が機能しなくなる恐れが指摘されています。

② 個人情報・機密情報の漏えい

教育現場でChatGPTを使用する場合、学習者の個人情報や学習データ、学校の機密情報を取り扱うこととなりますが、適切な保護策が講じられない場合、情報が漏洩し、プライバシーの問題が生じる可能性があります。

実際に、オプトアウトを申請しない限り、ChatGPTに入力した内容はOpenAIによってその内容を利用するケースがあると、OpenAI社が公表しています。このため、ChatGPTの利用に際して個人情報と機密情報の入力には十分に注意する必要があります。

③ 誤った内容・不適切な情報

ChatGPTが誤った回答や不適切な回答をしたとき、学習者がそれに気付かず受け入れてしまう恐れがあります。

ChatGPTの精度は飛躍的に高まっていますが、それでもまだ完全ではありません。

ChatGPTが生成する文章には、時には事実ではない内容が含まれていたり、不自然な文章が生成されることがあります。

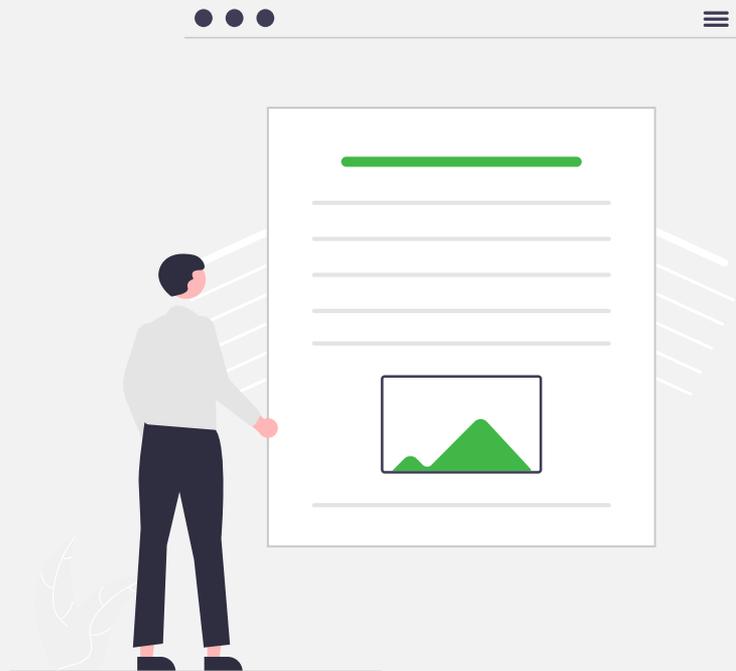
このため、ChatGPTの情報をすべて鵜呑みにせず、あくまでの1つの案として、しっかりと人間がチェックし、情報を精査して使う必要があります。

④ 法令違反・倫理的問題

上記で解説したように、ChatGPTが出力する文章には、間違った情報や著作権法に反する内容などが含まれる可能性があります。

また、ChatGPTは原則として犯罪に利用されるような回答を生成しないと謳ってはいますが、回避ワードを入力すると、犯罪に利用できる回答が生成されてしまうという欠点が指摘されています。

そのため、ChatGPTを誤って利用すると法令違反、事件、倫理的問題に巻き込まれる可能性があることもしっかりと認識しておく必要があります。



⑤ ガイドライン・指針の明確化

ChatGPT を教育現場に導入するためには、各教育機関が学生や教職員に対して十分な情報提供を行い、
学校としての指針、運用計画を明確に示すことが求められます。

文部科学省は2023年7月13日に「**大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて**」という通知を出し、ChatGPTなどの生成AIに関する留意点等をまとめました。すでに主要な大学では生成AIの利用に関する方針やガイドラインを発表していますが、文部科学省は、そうした方針が未制定の大学・高専に対して「学生や教職員に向けて適切に指針等を示すなどの対応を行うことが望ましい」としています。

出典：文部科学省「大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて（周知）」
https://www.mext.go.jp/content/20230714-mxt_senmon01-000030762_1.pdf
(2023年8月28日参照)

第二章

ChatGPTを教育で活用する際のポイント

ChatGPTを教育で活用する際のポイント

このようにChatGPTの教育活用には現状、さまざまな課題があります。しかしながら、ChatGPTを含むAI全般は、今後加速度的に社会へ浸透していくものと考えられます。そのため、教育においても、ChatGPTの利用を禁止するより、どう使いこなすかという視点が重要となってくるのではないのでしょうか。

ここでは、教育においてChatGPTを利用する際の3つのポイントをご紹介します。



ポイント 1

ChatGPTの利用を前提とし、許容する行為・禁止する行為を明確化する

ひと口にChatGPTを利用すると言っても、初等中等教育なのか、高等教育なのか、社会人教育なのか、対象者やサービスによって使い方は異なってきます。

学習活動（プロセス）に使うのか、はたまた成果（アウトプット、パフォーマンス、課題解決）のために使用したいのか、目的も重要です。

そのため、まずはChatGPTを使って「何をしたいのか?」「させたくないのか?」を明確にする必要があります。

文部科学省は2023年7月4日に発表した「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」の中で、生成AIの不適切な使い方、適切な使い方として、次のような例を挙げています。



適切でないと考えられる例

- 生成AI自体の性質やメリット・デメリットに関する学習を十分に行わずに自由に使わせること
- 各種コンクールの作品やレポート・小論文などについて、生成AIによる生成物をそのまま自己の成果物として応募・提出すること
- 子供の感性や独創性を発揮させたい場面、初発の感想を求める場面などで最初から安易に使わせること
- 定期考査や小テストなどで子供達に使わせること

活用が考えられる例

- 情報モラル教育の一環として、教師が生成AIの誤りを含んだ回答を教材として使用し、その性質や限界等を生徒に気づかせること
- グループの考えをまとめたり、アイデアを出したりする途中段階で、足りない視点を見つけ議論を深める目的で活用させること
- 英会話の相手として活用すること、外国人児童生徒等の日本語学習のために活用させること
- 発展的な学習として、生成AIを用いた高度なプログラミングを行わせること

こちらは、学校関係者が生成AIの活用の適否を判断する際の参考資料として、2023年6月末日時点の知見をもとに暫定的にまとめたものになります。

ガイドラインでは学校で生成AIを利用する際のチェックリストも公開しているので、ぜひ参考にしてみてください。

出典：文部科学省「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」
https://www.mext.go.jp/content/20230718-mtx_syoto02-000031167_011.pdf
(2023年8月28日参照)

ポイント 2 教員のスキル向上

ChatGPTを教育現場で活用するためには、先生自身がChatGPTの特性やメリット・デメリットを熟知していなければなりませんし、ChatGPTが生成した内容を批判的に評価し、自らの意見や解決策を形成できるよう学生を指導しなければなりません。AI活用に対する倫理教育も重要になってくるでしょう。

そのため、教員も学びながらChatGPTを効果的に使いこなすためのスキルを身につけていく必要がありますし、教育現場全体のデジタルリテラシーの向上もポイントとなります。



ポイント 3

評価方法の変化

ChatGPTのようなAIツールを用いた学習が一般化することで、従来の試験や評価方法も変化する可能性があります。

最終成果物以外の思考プロセスも評価対象にしたり、プレゼンや質疑応答により学生の理解度を評価することも、これからの教育では必要になります。

今の子供たちが社会に出るときはAIの時代を迎えています。そこではChatGPTのような生成AIを駆使して生産性を上げる人材が重用され、そうでない人たちとの間に格差が生じるとみる専門家もいます。

少なくとも、ビジネスの課題を解決する「AI活用人材」は今後あらゆる分野で必要となることから、そういった人材を育成する教育現場では、従来の評価指標とは異なる、新しい評価方法を取り入れることが求められるでしょう。

第三章

デジタル・ナレッジにおける ChatGPT×教育活用の取り組み

デジタル・ナレッジにおける ChatGPT×教育活用の取り組み

デジタル・ナレッジでは、ChatGPTを活用した教育サービスをすでに開発・提供しております。
ここでは2つの取り組みをご紹介します。

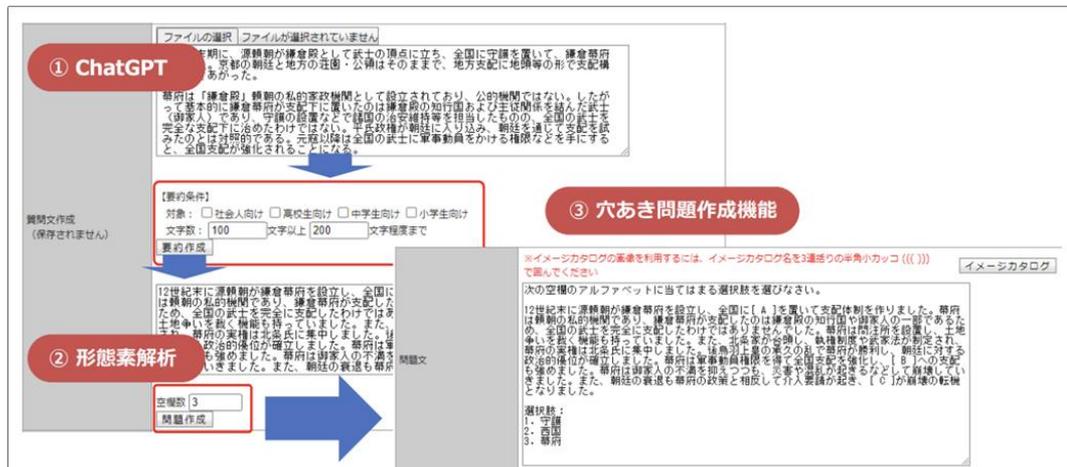


<https://torepa.jp/ja/>

トレパJは、ChatGPTと連動し、自然会話まで実現した最新の日本語学習用ソリューションです。

ChatGPTとの自然な会話により、日本語を効果的に学習できるツールとして、すでに海外や国内の外国人向け教育に活用されています。2023年3月には、トレパJを活用した海外の学生が現地の日本語弁論大会でTOP3を独占するなど、高い効果を上げています。

ChatGPTで教材作成が可能なLMS 『KnowledgeDeliver』 ChatGPTとの連携により、学習管理システム 『KnowledgeDeliver』 上で半自動的にテスト問題を作成する機能を搭載しました。



画像のように、条件（対象者・問題の文字数・空欄数）に合致した穴あき問題を簡単に自動生成することが可能です。今後は、PowerPoint内のテキストや映像内のセリフを抽出して自動的にテスト問題を作成したり、LMSへの問題登録まで、すべてChatGPTが半自動的に実施できるよう開発をすすめています。

ChatGPTを使った教材作成は、現在、非常にお問い合わせが増えている分野です。

第四章

まとめ

まとめ

今後、ChatGPTなどの生成AIが私たちの生活の中に入ってくるのは確実で、教育シーンも例外ではありません。
そのため、ChatGPTの特性、メリットとデメリットをきちんと理解した上で、教育現場においても活用を進めていくことが重要です。

現在は、AIにおけるカンブリア紀とも表現されている特殊な状況ですが、同時にチャンスでもあります。
ぜひ、この状況下において、学校教育、教育サービス事業、企業研修等、人材育成に携わる方々と一緒に、新しい教育のあり方を模索していければと思います。

※ChatGPT名称を含むサービスはOpenAIが提供する生成AIです。
(2024年1月17日現在)

教育現場でChatGPTの活用を検討されている方、具体的な事例・使い方を知りたい方、自社にあったより効果的な導入をお考えの方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

皆さまからのご連絡をお待ちしております

メールで質問

infoadmin@d-k.jp

電話で質問

導入の
ご相談 **050-3628-9240**

その他 **03-5846-2131**

サイトを見る

デジタル・ナレッジ

検索